

8月7日(日)発行

当日の感動を  
すぐお届け!!

特別協賛: **TOSHIBA**  
Leading Innovation >>>

ほぼ

# 日刊サマーミュージック

Hobo Nikkan Summer Muza

朝刊

## 清涼感に満ちたバッハと ヘンデルの世界



8月6日(土) 真夏のバッハ〜松居直美パイプオルガン・リサイタル 撮影：青柳聡

「真夏のバッハ」と題された松居直美のオルガンリサイタルは、連日の猛暑を忘れさせてくれる清涼感と、静かな感動に溢れた内容であった。

誰もが一度は耳にしたことがあるであろう「トッカータとフーガニ短調」で幕を開けた松居のバッハとヘンデルの世界。彼女は日本最大級のパイプとストップの数を誇るミュージア川崎のオルガンの特性とホールの残響を計算した演奏を繰り広げていく。細かなパッセージを奏する際のタッチや付点のリズムの扱いをかなり鋭角にし、各音の粒立ちを

これでもかというほど明瞭に仕上げているのだ。タッチの巧みなコントロールは楽器とホールの響きを完全に掌握することに成功しており、多彩な音色を聞き手にわかりやすく届けてくれた。

共演者の演奏も忘れてはならない。まずはバッハ＝グノーの「アヴェ・マリア」や「マタイ受難曲」やヘンデルの「メサイア」の aria を歌ったソプラノの森麻季。透明感のある美声で言葉の一つ一つを丁寧に、かつ明瞭に発し、メッセージ性の強い歌唱を聞かせ、宗教曲の本来のあり方

を比類なき美しきで示した。「マタイ」ではフルートの濱崎麻理子も登場。演奏後に「オブリガードが好き」とコメントしていたが、それを大きく納得させる、共演者の音色との溶け合い、また主張のバランスが実に巧みな演奏であった。

アンコールは松居の独奏によるバッハのコラールが2曲。木管的な響きで作り込まれた演奏で静かな余韻を残しつつ会を終えた。(長井進之介 ピアニスト / 音楽ライター)

明日(8/8)は休刊日です



開演前のオルガン・カフェも大好評でした!

8/6 真夏のバッハ

お客様の声から♪

荘厳な中にも温かみのあるミュージアのパイプオルガンの響き。中世のヨーロッパの教会にタイムスリップした気分でした(57歳・会社員・UCCY) / オルガン名曲だけでなく、美しいソプラノとフルートのコラボがとても良かったです。森麻季さんは美しい声、容姿でまるで天から降りてきた女神のようでした(61歳・会社員・MIKI) / パイプオルガンと森まきさんがすてきでした(10歳・小学生・大峰蓮華) / 「カフェ」終了後、オルガンの内部を見せてくれてとても興味深かった(匿名) / 松居さんの演奏は呼吸が深くてバッハとともにあるという感じがしてさすがでした(60歳・花見百姓) / これまで宗教音楽という先入観がありました。ソプラノ、フルートのコラボや松居さんのバッハへの思いが伝わる素敵な演奏会でした(59歳・パート・nanasuki) / 歌も演奏も素晴らしかったが、日本人女性の品位を感じた(69歳・無職・SHIGU) / 選曲、構成が素晴らしく、感動(46歳・会社員)

## NEXT!! フェスタサマーミュージック

明日はどう聴く? 20代応援団がナビゲート!

8月9日(火) 18:30 開演

昭和音楽大学

生誕110年!

ショスタコーヴィチの  
「革命」

指揮：海老原光



個人的な思い出で恐縮ですが、昭和61年生まれ私が最初に購入した交響曲のスコア(楽譜)はショスタコーヴィチの第5番でした。およそ80年前に作曲されたこの作品は、すぐに著名な指揮者達がレパートリーに取り入れたことにより、初演から途切れることなく世界各地で演奏され続けているという歴史上、稀に見るほどの成功作。若い世代にとってはモーツァルトやベートーヴェンよりも親しみを持っているであろうこの作品に、昭和音大の若き音楽家たちはどう挑むのでしょうか!?(小室敬幸 作曲/音楽学)

昭和音大がサマーミュージックで贈るのは、生誕110周年の記念イヤーを迎えたショスタコーヴィチの交響曲第5番をメインとするプログラム。前半にはロッシェニの「泥棒かささぎ」序曲が置かれたが、この二人の作曲家を見てニヤリとする聴き巧者の方も多いのでは。(ショスタコーヴィチの最後の交響曲『第15番』では、ロッシェニの有名な『ウィリアム・テル』序曲が露骨に引用される)中プロ、ブラームスのハイドンの主題による変奏曲も真夏の夜にしっかりと我々を癒すことだろう。ロッシェニの軽妙からショスタコーヴィチの慟哭まで、振幅大きく描く海老原光 × 昭和音大のフレッシュさに期待したい。(平岡拓也 大学生/音楽プログラマー)



本物の音楽を間近に

イツ・ア・ピアノワールド



8月6日(土) イツ・ア・ピアノワールド 撮影:青柳聡

ステージにはグランドピアノ。そのピアノを取り囲み、ピアニスト小川典子さんの迫力のある音楽に子どもたちは釘づけに。普段は感じることでできない演奏者の息づかい、ピアノの振動、音に手拍子をする子どもや3拍子のリズムを身体で揺らしながら聴く姿もあり、子ども達は何か特別なものを感じたようでした。

プログラムはシューマン「こどもの情景」、武満徹「雨の樹素描Ⅱ」などが揃い、ショパン「バラード1番」は物語が目に浮かぶような旋律。リスト「ラ・カンパネラ」は激しい跳躍が特徴的で、遠くで鐘が鳴り響く感じが感じられました。アンコールのサティ「ジュ・トゥ・ヴ」は3拍子がとても心地よく、また旋律が美しくホールに響きました。

曲の間には毎年恒例の質問コーナー! 全ての子ども達にマイクが回らないくらい様々な

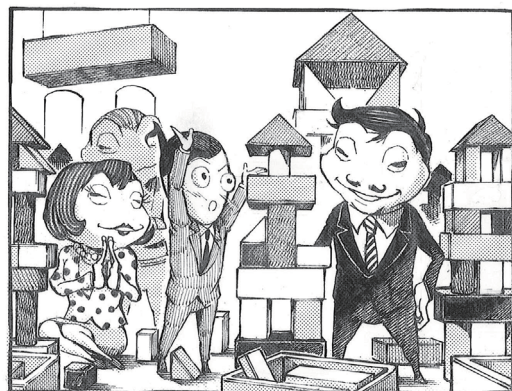
質問が飛び出しました。「オクターブをレガートに弾くにはどうしたら良いか」という質問に、小川さんも実演をまじえ、丁寧に答えてくださいました。演奏後のサイン会では長蛇の列! 笑顔で帰っていく子どもの姿が印象的でした。また、来年の夏もたくさんの子供が聴きに来てピアノの迫力を感じてほしいと思います。

(研修生・す)

8/6 イツ・ア・ピアノワールド

お客様の声から♪

グランドピアノが近くで見れて良かったです(10歳・小学生・岡泰成) / ラ・カンパネラは最高でした。とくにラストは思わず身を乗り出しました(65歳・会社員・ポッポソノ) / 子ども向けの公演にも関わらず手加減なく全力での演奏にお腹いっぱい(37歳・会社員・ゆうぎ) / 小川典子さんの手の動き、ドレス、どれもステキでした(9歳・小学生・まーちゃん)



コンサートへの道 第13回 楽しむコツは「十人十色」

The Road to becoming a Concertgoer

画: 井上孝志  
文: ミューザスタッフ

コンサートに向けてCDで聴いていた演奏と、全然違ったんだけど! — CDとの違いに気づけるとは! すばらしいセンスと良い耳をお持ちなのですね。聴き慣れたCDとは違う演奏に驚かれたと思いますが、音楽は「再現」の芸術です。同じ作品でも、演奏家・指揮者によって解釈が異なり、まるで違う曲かのように聴こえることも。だからこそ、「この指揮者が好き」「この演奏家が好き」という好みが出てきます。どう音を組み立て、それをどう受け止めるか。それぞれの違いを楽しめるのも、クラシック音楽の醍醐味です!

パートナーショップのご紹介  
**エンジョイ! 川崎!!**  
Enjoy Kawasaki  
イタリアン  
**オステリア ガリレオ**  
ラチッタ デツラ2階・パートナーショップリストP.14

サマーミュージカ特典 チケット提示で  
**デザートサービス (パンナコッタ)**  
※詳細はパートナーショップリストをご覧ください

駅を挟んでミュージカの反対側にあるラ・チッタ・デツラ。足を踏み入れると、イタリアの雰囲気たっぷりの場所です。映画館のチケット売場のエスカレーターを使って2階へ。向かったのはイタリアンのお店。ピザランチとパスタランチがありました。パスタをチョイス。ボリュームたっぷりのサラダと、ドリンク付き♪ アルデンテのパスタにさっぱりしたトマトの味がおいしいボロネーゼソースで大満足で

した。デザートのパナコッタもとろけるおいしさ。窓から外を見るとちょうどイタリアっぽい路地で、ちょっとした旅行気分も味わえますよ。(事業課 も)



本日(8/7) コンサート前のお楽しみ♪  
本日の「日本フィルハーモニー交響楽団」公演は「公開リハーサル」のある公演です。  
**11:00 ~ 最長 13:30**  
公開リハーサル中のみ、自由席です。

当日の感動をすぐお届け!!  
毎日  
**日刊サマーミュージカ**  
Hobo Nikkan Summer Muza  
バックナンバーはミュージカホームページでも公開中!  
<http://www.kawasaki-sym-hall.jp/>

本日もホールの中で、出演者の皆さんが奏でる音楽と過ごす、素敵なひとときをお楽しみください。事業課が

念でもホールの中で、出演者の皆さんが奏でる音楽と過ごす、素敵なひとときをお楽しみください。事業課が

スタッフ日誌

現在会員の方に

“最響の水”が当たる!  
サマーミュージカ公演のチケットを事前にご購入の友の会会員様、各公演抽選で20名様に“最響の水”をプレゼント!(当選者の座席番号を当日ロビーに掲示いたします。)

